



盆踊り大会を開催しました

文化部主催で8月14日（木）午後7時30分～9時まで地元住民、帰省客の皆さんで大変にぎわいました。ケーブルテレビでも放映されましたがご覧になられましたか。

連日猛暑日が続いておりましたが涼を求めて多くの皆さんにお越しいただきました。

文化部員、やちゃ踊り保存会、区長会の皆さんには櫓建てやイベント準備に大変暑い中、お盆の多忙の中参加いただきました。開始と同時にイベントコーナー、屋台コーナーには多くのお客様で大盛況でした。

今年はやちゃ踊り保存会主催で盆踊りの練習会が3回開催され多くの皆さんに参加いただきました。その成果もあり、やちゃ踊り保存会の皆さんを中心に踊りの輪は大きくなりました。お囃子やたいこ、歌や踊りで会場はたくさんの人、そうあんくんの登場で子供達は大喜びでした。そうあんくと記念撮影される家族もありました。踊りの輪は途切れることなく9時まで続けました。

小学生以下の子供達にはお菓子、おもちゃのプレゼントが受付で渡され、数が限られているので少し遅く来られた子供さんはプレゼントがなくて申し訳なかったです。ヨーヨー釣り、スーパーボールすくい等各3回挑戦無料券も渡されていたので何度も挑戦してました。多くの子供達で終了間際まで賑わっていました。屋台コーナーでは生ビール、焼き鳥、かき氷、お茶・ジュースはどこも大盛況で、焼き鳥は特に人気で早々に売り切れになりました。ご参加、ご利用ありがとうございました。

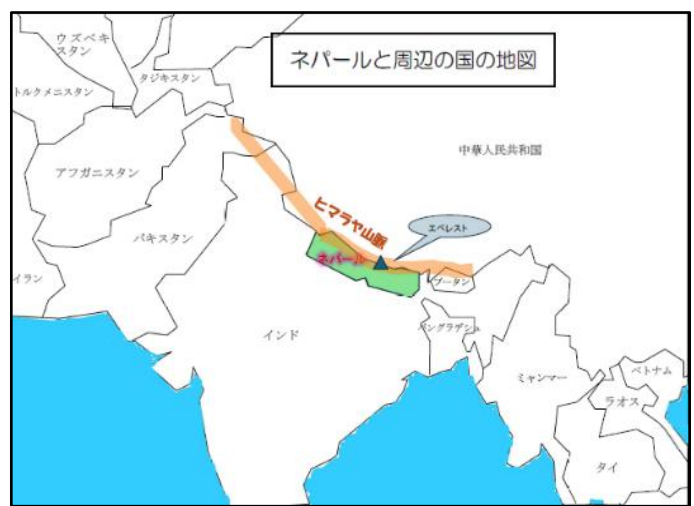


宿南地区で国際交流 地蔵祭り盆踊り

8月23日に川東、川西、門前地区の地蔵祭りが宗恩寺境内で開催された際にネパール人の団体さんを温かく向かい入れていただきありがとうございました。束の間の国際交流ができ、とても良い機会でした。

このネパール人の多くは、神戸の複数の介護施設で技能研修のために日本にいられており、その派遣のお世話をされている方が、故郷を離れて都会に暮らすネパール人同士の交流や日本のことを学習するための会を作られて、今回、8月23日に口三谷の山里活動地で一泊キャンプを計画されました。この計画のきっかけは、30年程前から口三谷で、毎年山里スモーククッキングパーティーが開催されており、そこに神戸からの常連さんと一緒にネパール会の世話役の方が参加されて、この場所ならネパール人が、故郷を感じながら交流会ができるので、受け入れてもらえないか？との相談を受け、実現に至りました。

せっかくの機会なので青谿書院で池田草庵先生のお話も聞いてもらい、当時の日本の様子が、今のネパールの様子と重なるところもあったようで感じるころがあったと思います。 口三谷 維田 浩之



「介護予防 つながりサポーター養成講座」の発表から

去る8月21日（木）養父市社会福祉協議会による第2回目の表題の養成講座で、宿南地区自治協議会の喫茶ひまわりの普段の取り組みを発表させていただきました。

週2回・2時間の営業していること、常連さんや、趣味の集まり、体操の帰りなどで毎回20人程のお客さんがあること、月1回手づくりのおやつとコーヒーを提供し好評いただいていることなどを発表しました。

これからも続けていくためには、先ず私たちが活動を楽しみ、皆が負担にならない運営を心がけていくことが大切だと思っています。

一杯のコーヒーで、地域のことや、お互いの近況報告のできる貴重な場として、これからも頑張っていきます。

意見交換の中で各区のサロン活動も同じように100円～300円で、コーヒーとお茶菓子、手芸や体操なども楽しまれていることを知り、大変参考になる講座でした。

発表のあと、坂本区の大谷和子さんから、おいしいコーヒーの淹れ方を教わりました。焙煎から見せていただき香り高いコーヒーの匂いが会場いっぱいひろがりました。

とても深みのあるおいしいコーヒーでした。

喫茶 ひまわり 西村 令子



身近で見られる植物 ⑤1

センニンソウ〈キンポウゲ科〉(仙人掌)

8月末頃から、日当たりの良い道端の草むら、林縁の笹や灌木などに覆うようにして白い花が目立ちます。白い花弁に見える4枚のものは萼片です。(前回のタケニグサもそうでしたね)葉は、ギザギザが無く、小葉が3〜7枚の羽状複葉のツル性植物ですが、3枚のものが多いです。熟した種子の様子を見て仙人掌と名前が付いたそうです。

種子の時に観察してみてくださいね。



養父市一斉避難訓練がありました

川東区では9月7日(日)午前10時から実施されました。告知放送を聞いてから慌てずに指定場所に向かい、受付を済ませた後、市長のメッセージの代読を聞いてから訓練に入りました。内容は椅子型担架の使用方を教わりいろいろな想定をして使い勝手の良い方法を学びました。

その後、女性でも使用できる軽量の消防ホースを使っ
ての放水訓練も実施しました。



お知らせ

9月〜10月 各区クリーン作戦

9月28日(日) 八鹿青溪中学校資源回収

10月 4日(土) 宿南地区総合運動会(午前 小学校 午後 地区)

10月13日(月 祝) 秋祭り

9月27日(土) 小学校校庭芝刈り(体育部)

10月22日(水) 議会報告会



草庵先生紹介

日記 79



藩主の世子らの出迎えを受け、草庵の乗った駕籠は夜になると箱ちょうちんをつけて福知山城に向かった

宮崎和夫さん作

池田草庵が福知山藩に出かけて講義をするのは元治元(1864)年9月から始まった。これ以後、明治維新の前年の慶応3(1867)年までの3年間、3月と9月に福知山藩に出かけて講義をした。「早起き。講義は『左伝』をする。検読1人、授読1人。午後、福知山藩からの迎えの者が来る。(後略)」(慶応3年9月4日)「早起き。福知山に向かつて駕籠で出発」(同月5日)

これは日記に書かれた最後の福知山藩での講義に出かける時のことだ。この時もいつものように前日には青谿書院に福知山藩から迎えが来た。書院から福知山まで約50キロ、途中1泊することもあったが、この時は早朝に出かけ、一路福知山に向かった。福知山藩はいつもどのように草庵を出迎えたのか。池田紫星著「池田草庵」には次のように書かれている。「草庵の一行が野花という福知山城から7キロ辺りのところに来ると馬に乗った武士が出迎え、やがて藩からの出迎えの駕籠に移る。先払いを付けて進んで行くと藩主の世子の使いが来て、世子が迎えに来ていと告げる。荒川という福知山城の近くで世子が出迎え、あいさつをして休憩する。夜になってから駕籠の両側に箱ちょうちんをつけて城に向かった」

福知山までは1日の行程。草庵は駕籠の中で少し心の余裕もあったのか行き帰りの途中の風景などをいくつか漢詩にしている。その中から意識して紹介する。

「元治2(1865)年 春3月4日 福知山に赴く途中で 朝の霧は次第に晴れ寒さもやわらいできたもやでかすんだ丸い陽が山々の間に出てきた 行くにつれ景色が両側の窓から見える 春の暖かさを駕籠の後ろに集めて」

福知山藩への出講をきっかけに、その後福知山藩からも藩士が青谿書院に入門してくるようになった。門人帳には、延べ15人余りの福知山藩士の名前が記されている。

池田草庵先生に学ぶ会